大磯の賢人　吉田　茂

不吉な同盟

昭和14年9月ドイツ軍がポーランドに侵攻し、第二次世界大戦が勃発しました。

昭和13年に外務省を退いた吉田でしたが、日々険悪化する国際情勢を見過ごすことはできませんでした。開戦の回避に向けて、吉田は水面下での活動を続けていたのです。

近衛文麿内閣が総辞職した昭和14年1月以降、僅か一年半のうちに平沼騏一郎、阿部信行、米内光政と三つの短命内閣が続きます。この間、吉田は、日中戦争交渉の基本方針を同じくし、英米関係を重要視していた宇垣一成を首相に擁立しようと奔走しました。

しかし、宇垣擁立案は実現せず、昭和15年7月、国民の期待を背に、第二次近衛内閣が発足します。外相には松岡洋右、陸相には東条英機が就任しました。

近衛を中心とした挙国一致の政治体制の確立を目的とする「新体制運動」が推進される中で、昭和15年10月には近衛を総裁とした大政翼賛会が成立します。

第二次近衛内閣は、ヨーロッパ戦線において戦局を有利に展開していたドイツに接近し、同盟締結に向けた交渉を進めていました。

日独伊三国同盟締結が避けられないと考えた吉田は、近衛に9月17日付けで手紙を書いています。

吉田は当時破竹の勢いだったドイツの戦況が、今後は不利となることを見越していました。また、日中戦争の解決が未だに実現しないのは、助けにならない独伊を頼りにして、英米という在中勢力を利用しなかったためであると主張しています。この上、独伊との関係を強化しようと同盟を結ぶのだけは何とでも阻止しなくてはならない、と考えた吉田は、近衛に「最早進退を御考慮相成る可き秋（とき）かと存じ奉り候」（『吉田茂書翰』）と、辞職を勧告したのです。

しかし、吉田の必死の進言も空しく、日本は9月、北部フランス領インドシナに進駐し、直後の9月27日には日独伊三国同盟を締結しました。

国際社会で孤立していた日本の立場を強化すると共に日米関係の悪化を防ぎ、アメリカの参戦を抑止することを企図して締結された日独伊三国同盟でしたが、同盟が締結されると、アメリカ側の態度は硬化します。

アメリカは対抗の意志を表明し、対日経済制裁を強化します。日米関係は更に悪化の道を辿ることになるのです。

▲1940年9月27日　日独伊三国同盟調印式
前列 左から来栖三郎駐独大使、ガレアッツォ・チャーノ伊外相、
アドルフ・ヒトラー独総統、ヨアヒム・フォン・リッベントロップ独外相
（写真／ Imperial War Museum 所蔵 IWM Photo Archive HU 75995）

◎問い合わせ
郷土資料館　学芸員　曽根田
☎(61)4700

旧吉田茂邸再建基金寄附者一覧⑱（13件：12月8日～1月11日）

1月11日現在、総額47,248,072円の寄附をいただきました。ご協力ありがとうございました。

（寄附受付順、敬称略）

氏名（名称）	住所（所在地）	寄附金額
今井　岩夫	千葉県我孫子市	¥1,000
中島　源吾	大磯町	¥200,000
匿名	※※※※※※	¥30,000
大磯町体育協会	大磯町	¥81,000
匿名	※※※※※※	¥10,000
眞橋　留美	東京都江戸川区	¥10,000
「バガボンド」のお客様	大磯町	¥10,819
山口　俊之	三重県四日市市	※※※※※
小島　重蔵	大磯町	¥30,000
小島　洋子	大磯町	¥20,000
太田　征	東京都町田市	¥20,000
匿名	福島県浪江町	¥3,000
成瀬　茂樹	大磯町	¥10,000

※上記のほか、4名の方から33,501円、役場本庁舎1階及び地階設置の旧吉田茂邸再建応援自動販売機の売上実績分として116,214円のご寄附をいただいております。

◎問い合わせ　都市計画課　☎内線243